

←受賞者を代表し、武居文二副知事から表彰を受ける大久保琢磨会長（赤池）。9月17日、福岡市の会場で約500人が見守る中壇上で手渡されました。昨年の国土交通大臣表彰へ今年も環境省表彰に引き続き功績が讃えられました。



←鯉のぼり掲揚（H9）、河川敷を泳ぐ百匹の五月鯉は春の風物詩に。



←河川敷清掃（H9）、毎月1回、会員の自発的な活動を地道に継続。

平成9年からボランティアによる河川環境美化活動が続いているひこさんがわ夢の会（大久保琢磨会長）が、福岡県環境衛生大会で知事表彰を受賞しました。11年以上にわたる毎月の河川敷清掃と毎年の鯉のぼり掲揚をはじめ、サケの稚魚放流や小中学校での環境教育など幅広い活動を展開してきた夢の会。現在会員数は約70人にまで増え、故郷の川を想う輪はいつそう広がりをみせています。



←サケの稚魚放流（H15）、小中学校と清掃や水質検査も行っている。

# ひこさんがわ夢の会 川と歩んだ11年 栄えある知事表彰受賞



▼11月3日の「文化の日」を前にして、また、うれしい知らせが飛び込んできました。毎年、東京で開催されている「全国青年大会」（今年も11月7日から10日まで）の郷土芸能部門に、金田地区平原青年団が、福岡県代表として出場することになったというのだ。57回を数えるこの大会には、これまでも何度か出場した実績があるとは言え、福智町誕生後初めてであり、まさに町をアピールする絶好の機会となる。また、3年ぶりに手にした舞台でもあり、満を持して、日ごろの練習の成果を発揮してほしいと願っている▼ところで、金田地区では、例年10月の20日前の土曜・日曜の2日間、稲荷神社神幸祭（今から約250年前の宝暦3年が起源とされる）が行われており、その際「豊作祈願」や「悪魔」を退散させるため、保存会による獅子舞が奉納され、町内ではいくつかの地域で獅子舞が継承されている。今回の出場では平原青年団の獅子舞が披露されることになるが、就学前の幼児から青年にいたるまでの若さあふれるチームの潑刺とした演技は、きつと、見る人を魅了してやまないだろう▼時代を経て受け継がれてきた地域の伝統芸能が、若い人達の力によって、さらに輝きを増す——この繰り返し、郷土の文化を育み、より一層強固なものとして根付かせていくのだと思う。町内には、古くから伝承されている催しや芸能が数多く存在しており、地域文化として、その保存振興に努めていくことが、現在に生きる私達の責務だと考えている。平原青年団の活躍を願うと同時に、周りにおける文化の芽を認識し、育てるきっかけとしたい。

浦田 弘二